

貢献に大臣感謝状

福原市長「大館の宝」

まちづくり

職能短大の小笠原教授

都市計画法・建築基準法制定100周年記念事業で国土交通大臣から感謝状を受けた秋田職能短大の小笠原吉張教授が25日、大館市役所を訪れ、福原淳嗣市長に喜びを報告した。

記念行事の一環として、都市計画と建築行政の推進等に功績のあった個人と団体に対し、国土交通大臣が感謝状を授与。表彰式は19日に都内で行われ、都市計画法関係は22団体、116人、建築基準法関係は14団体、141人が表彰された。県内では5人が受賞、うち北鹿地方は1人。教授は2005年から都市計画マスタープラン策定委員となり、現在は都市再興協議会委員や市歴史的風致維

持向上協議会副会長、市都市計画審議会会長を務めるなど大館のまちづくりに尽力、貢献してきた。今回の受賞は都市計画の決定・推進に関して



顕著な功績があったことが評価された。

福原市長は「小笠原さんは大館の宝。賞をもらって終わりではなく、これからも大館ならではのまちづくりに励んでほしい」などさらなる活に期待した。教授は「生まれ育った大館のまちづくり、地域貢献として続けてきた活動が認められてうれしく思う。自分自身もこの活動を通じて成長できた。経験を生徒たちに伝え、建築、土木だけでなくいろいろな人と関わりながら、これまで以上にまちづくりをしていきたい」と笑顔を見せた。

福原市長に受賞報告をする小笠原教授(大館市役所)